

あーら

MINI <5号>

1977年5月発行 ¥150 丁60

今月のなかみ

〈特集〉	ほんとうに女たちが期待できる政党は？	1
各政党にきく	熱弁観戦記	4
着物と君が代 杉浦雅恵	どうしたらいいでしょうか？	6
〈募る〉	あーら全国大会実行委員を募る	6
〈あーらメイト〉	小島豊子さん	7
〈読む〉	男たちよ！	7
〈見た？〉	テレビ出演余話 浅野美和子	7
〈女のつどい・女の講座〉	五月十四日・六月七日	8
〈お知らせ〉	各地の「あーら」の例会	8

〈あーら〉は会員の拠出した基金と年会費および雑誌〈あーら〉〈あーらミニ〉の売上で運営されており、どの企業、どの政党、どの団体からも1円の援助も受けていません。年会費は婦人問題総合情報誌〈あーら〉(A5 180ページ)ともで4,000円。〈あーらミニ〉のみ購読の場合は2,000円(いずれも送料とも)です。会費・誌代は振替でどうぞ。

〈女と男〉のミニ雑誌〈あーらミニ〉 ●何でも言える
●何でも書ける ●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あーら〉
●あなたの声を待ってます。下欄の編集部へどうぞ。

私たちが参政権を得て、三十年が経った。第一回衆議員選挙で、その一〇%を勝ち取った女性議員も、現在は二%弱を占めるだけに減退した、同じだけの男と女が生きている社会の中で、政治が九八%の男とわずかに二%の女の関係で行われていることに、私たちは大きな危惧を覚える。

事実「青少年」とか「婦人」とか言われるように、常にカッコ付きの対象として、私たちはあつかわれてきた。「青少年」は成長し、社会機構に組み込まれて行くが、「婦人」はそのカッコをとりはずされることなく、永久に「婦人」というレッテル付きで扱われてゆく。

少数の婦人議員は、与野党いずれにしても、婦人問題、婦人対策等の党内意志一致のために翻ろうされ、女の問題を行政に反映させ難い状況にあると思う。このようなことは、行政レベルでなくと

ほんとうに女たちが期待できる政党は？



も、労働組合の婦人部とか女性委員が常に苦渋をなめさせられていることでもある。

この七月に参議員選挙を控えている今、女性解放の理念に基づき、政治参加を企てる三つの集団が生まれた。「日本女性党」(代表・榎美沙子)、「新しい連動を求める人々の会」(代表・小沢遼子)、「革新自由連合」(代表・中山千夏ほか)である。「国内行動計画」が公布された時点で、現在の政府あるいは既成政党に限りない不満をいただき、その非力さを痛感した私たちにとって、新たな政治方向を見出し出し得る動きになるかもしれない。

四月十六日、千駄ヶ谷区民会館において、「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」主催の、各政党に男女平等政策を聞く会―女が、期待できる政治とは？―が開かれた。参院選の指標の一つとして、次ページ以下にその概要を紹介する。

社 会 党	共 産 党	新しい運動を求める人々の会
<p>罪悪だと考える。</p> <p>企画推進本部があるが不十分。これを権限あるものにする。労働婦人等を入れメンバーチェンジをする。</p>	<p>当然である。</p> <p>婦人の声をより反映させる形で、その結果を助成しながら、婦人の地位向上のための政策を積極的に追求する。</p>	<p>女性差別はあらゆる差別の根源をなしているという理念に基づいているので当然同意。作っていかねばならないと考えている。</p>
<p>各種審議会に女性を登用させるだけでなく、男女平等の理念を徹底させる。今国会に雇用平等法を上程する。中央・地方各種委員会の3分の1は女性とし10年後には半数としたい。党婦人議員が推進役となって協力。</p>	<p>各種委員会の運営を民主化する。婦人関係の審議会に婦人委員を大巾にふやす。国家公務員の婦人をふやす。採用、昇任、昇格における男女差別を改める。基本的には学歴社会を脱皮しないとイケない問題。</p>	<p>国政、地方行政レベルに女性議員をだしていく。どんな選挙にも無党派の女性候補者をたてて当選させる。当選したら、政策グループを作って、女性側、市民側からの政策案を作成、当選者を通じ具体的な政治に反映させる。</p>
<p>大学までの男女共学の徹底。男女教科の平等を昨年、政府に申し入れてある。</p> <p>男女共修の運動を進めている。最終的には家庭科は廃止され幼児期から両親が教育すべきものと個人的（田中）には考えている。公立は別学をなくすべき。</p> <p>男らしさ、女らしさの強調をなくす。男社会の現状がそのまま教科書に反映している。</p>	<p>教科書検定を改める。男女の役割を固定的に扱う傾向をなくしていく必要がある。</p> <p>すべての児童生徒に教えるべき。</p> <p>基本的に共学であるべき。</p> <p>誤っている。学習指導要領を一方的におしつけることを廃止させる。</p>	<p>（何）を具体的に実現することにより問題は解決すると思われる。</p> <p>抗議行動を開始している。家庭科は生活技術ではなく男と女のかかわり方を学ぶ教科だ。廃止でなく、小・中・高で一貫教育を。当然、すべてを共学にすべき。</p> <p>性別分業、性差別温存の元凶としてチェックする。教科書の国による検定を廃し、小地域での自主選択制とする。</p>
<p>3条に「性別」も入れるべきではないか、と長い間言ってきたが、そうした場合、4条の男女平等賃金の原則が消えてなくなる心配があるので現在調整中。3条に入れるなら、4条の男女平等賃金がぬけないようにしたい。男女雇用平等法案を作成した。今国会に提出する。世界行動計画でもILO60回総会でも、雇用における不平等を粉砕するための実行力ある政府機関を作れと決議している。それを受けて当然政府が、国内行動計画のなかに盛りこむべきであったもの。</p> <p>産前産後10週間を基準法改正案として作っている。産休の期間は60%の所得保障。妊娠、出産、およびそれらに起因する障害については健康保険法と母子福祉法の改正を今国会に提出している。</p> <p>深夜業は男女ともにやらないほうがいいので労働条件を引上げることの方がいい。時間外労働については（新聞記者など）労基法の除外例として合意の上で入れればよい。労基法そのものを緩和するのは危険をとまう。危険有害物業務からの制限を取り除くのは危険。</p>	<p>総合的措置をとっていく。1昨年、母性保護の強化のためにという立法提案を行ない、ここで男女平等原則の確立を提起している。労基法4条を改正し賃金その他の労働条件についても差別的取扱いをしてはならないことを提案中。</p> <p>8週間、異常出産については10週間を確保すべき。出産手当金を現行6割から8割に引上げるべき。ゼロ歳児保育のための保育所を優先して作っていく。</p> <p>権利として主張していくべきである。男女平等の要求は、労基法などの規則を後退させることなく実現していくことがだいじ。</p>	<p>求人の際の性差別、賃金、定年、訓練、労働条件、職種などでの性差別を容認してはならない旨明記した「雇用平等法」を制定、違法企業に罰を与える権限をもった機関をつくることを考えている。</p> <p>すべて完全に実施されなければならない。産前産後16週、出産費用の完全給付などILOで決められた国際基準まで、母性保護を緊急に引上げる。</p> <p>現状の性別分業を認めた上で保護をとりはずすと、女は企業内で男なみに働いた上、二重三重の負担を負うことになり、不平等の拡大になる。男も家庭人として十分生きられる条件を整えることが先決。</p>
<p>保育所の整備をしなければいけない。保育所は婦人の労働権と子どもたちの保育権と保育労働者の労働条件を守っていくという3点からみなければならない。この点から「保育所整備緊急措置法」を何回かだしている。保育所に入れる子どもは保育に欠ける児童という立場はとらない。望めば誰でも受け入れられる幼児教育という立場。もっとヘルパーをだせるようにすべき。</p> <p>結婚年数を国民年金に加算すべき。誰でも最低の生活保障される方向をめざしたい。</p> <p>厚生省の老人用の大型基地対策の中に、働く独身女性が一緒に住むミニハウス案をいれるように要求している。</p> <p>遺族年金を80%要求している。</p>	<p>保育所を増設し充実させることが最も大切。それに努力してゆきたい。</p> <p>取主主婦の負担になっているが、公的施設を充実すべきである。看護婦、ホーム・ヘルパーの派遣制度を充実させていく。施設で人権が保障されるように内容も充実させていく。地域社会の民主的発展・協力も心の問題の解決の一助と考える。年金を万人に保障する。</p> <p>独身者の住宅確保。安く住みよい住宅をたくさん作る。年金は積立方式と付加方式にする。全体的に高めていくことが重要。</p>	<p>・保育所を充実させるとともに、保育者の労働条件を向上させる。 ・家事労働の社会化が労働力の再生産に利用されがちな現況では、むしろ男女とも命の営みをまかなうことを原則にしたい。</p> <p>介護者は女性であるべきと規定されると女性の生き方をせざるを得ない。ホームヘルパー制、介護手当支給、施設拡充など、多様な介護の方法を選択できるようにすべきと思う。</p> <p>即刻なくしていくようにしたい。</p> <p>独身女性に集ってもらい討議中。具体策の回答は追って述べたい。</p>

	公 明 党	民 社 党	日本女性党
<p>1. 男女差別をなくすために</p> <p>(イ) 世界行動計画に男女差別は罪悪とあるが、この考えに同意か。</p> <p>(ロ) 各国で行動計画の実行機関づくりをしているが日本でもそのつもりがあるか。</p>	<p>素直に同意する。</p> <p>早急に作らなければならないと思っている。地方自治体の段階で組織化を進める。各種婦人団体と協力しあって下から盛上げる。</p>	<p>全くその通り。同意する。</p> <p>実行機関を作るべきだと思う。</p>	<p>男女平等という発想ではない。女性優位。ない。</p>
<p>2. 政策決定について</p> <p>(イ) 政策決定機関に多くの女性を登用するための措置は？</p>	<p>婦人議員をふやしていくことがだいじ。それによって各種審議会の人選にタッチしていく。地方議会で婦人候補を大量に推薦する。</p>	<p>当面、全体の1割まで増したい。</p>	<p>女性雇用促進法を作る。幹部を半数以上女性にしないと税金徴収する。</p>
<p>3. 教育について</p> <p>(イ) 国内行動計画に、役割分業意識にとらわれない教育訓練を推進するとあるが、具体的にはどういうものと考えるか。</p> <p>(ロ) 教育課程審議会は、女子のみの家庭科を答申したがこれをどう思うか。</p> <p>(ハ) 男女別学の公立校がかなりあるがこれをどう思うか。</p> <p>(ニ) 教科書等の教材は男子中心の記述だが、これをどう考えるか。</p>	<p>男子優先の教育を家庭、社会で是正していく。</p> <p>中学校までの家庭科は男女共修の方針。</p> <p>男女共学を主張。</p> <p>小学校国語の教科書の女性著者は1%にみえない。女性の立場が反映されていない。日本の歴史は男中心に作られているのでこの点にも原因。女性が大学で教える道がとざされていることに関連がある。</p>	<p>婦人のための再教育の機会拡大や職業訓練の平等化など社会体制を整える。</p> <p>家庭科を生活科と改める。</p> <p>原則的には男女共学。地域によっては別学でもよく、流動的考え。</p> <p>男子中心の記述は検討し正していくべき。</p>	<p>男女役割分業意識にとらわれない教育は必要である。</p> <p>女子は選択にして、男子必修。</p> <p>男女共学が望ましい。けしからん。</p>
<p>4. 労働について</p> <p>(イ) 労働における男女平等のため、労働基準法の3、4条の改正及び男女平等法の制定をするつもりはあるか。また、その準備のための委員会はあるか。</p> <p>(ロ) 産休の延長、その間の所得保障など母性保障の基準引き上げと産休あけ保育の促進、保育所の充足について何か施策があるか。</p> <p>(ハ) 労働基準法上の時間外、深夜、危険有害業務の就業制限の撤廃は平等実現になるか。弊害になるか。また男性の無制限な深夜労働や時間外労働についてはどう考えるか。</p>	<p>労基法第3条に「性別」を明記する。採用時の機会的等促進。ILO111号条約批准。男女平等法のような法例を考えている。雇用促進特別委員会を国の段階で設置する必要があると考える。</p> <p>産前産後各10週間を保障。出産費用の健保給付を考える。保育休暇の1年間有給保障。授乳時間の90分延長。公立保育所での産休明け保育を可能にする。</p> <p>変える気は毛頭ない。厳格に守っている。社会が母性を守らねばならない。大事なことは、減収分を保障することである。</p>	<p>労基法の改正を考える。</p> <p>「母性保障基本法」を制定する。国会提出、継続審議中。</p> <p>制限全般の撤廃は必ずしも労働条件の平等にはならない。母性としての機能保護を最低限の条件として、それに影響のない範囲で、制限を緩和する。</p>	<p>ない。</p> <p>どんどん作ってゆきたい。</p> <p>女性の深夜労働は、女性を選択するべきものであって、法律で定めるべきものではない。ただ危険業務は、女性があえて行うべきものではない。</p>
<p>5. 社会保障等について</p> <p>(イ) 家事、育児の社会化をすすめるのにどのような政策を持っているか。</p> <p>(ロ) 老人、身障者、病人の介護は誰がどのようにすべきか。社会的保障はどのようにすべきか。</p> <p>(ハ) 女性が離婚した際年金権を喪失するがこれをどう考えるか。</p> <p>(ニ) 独身女性の税金は何ら控除されていず、ほとんど施策がなされていないが、たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高年独身女性の住宅確保をどう考えるか。 ・ 現行の厚生年金、国民年金による老後保障では、生活を維持するのはむずかしいが、これに対する保障はどう考えるか。 	<p>社会福祉として充実させる。家庭生活における男女平等を社会通念としていく。</p> <p>家庭による看護が最もよい。保健婦の派遣介護手当支給。緊急一時保護施設の拡充が必要である。</p> <p>不当差別の顕著なあらわれである。「国民基本年金」を作る。</p> <p>質問の通り。所得税大巾減税、税の公平化の中で考える。</p> <p>公営住宅の入居等を考える。</p> <p>年金法の改正。</p>	<p>家事の社会化は当然しなければいけない。</p> <p>住宅は国と自治体の責任。</p> <p>年金については、賃金の高い時を基準とする。「年金ポイント制」を導入する。</p>	<p>どんどん進める。男性が進んでやるべきものなのでそういう教育を考えている。</p> <p>やっているのがほとんど女性である。という現状はよくないが、今女性がやっていることについては当然保障がなされるべき。</p> <p>けしからん。</p> <p>「お茶くみ控除」として1千万円の控除、「奥様控除」として300万円の控除をしたい。</p>

社 会 党	共 産 党	新しい運動を求める人々の会
<p>前国会では、公衆浴場法の一部改正だけが通った。ほんの一部分だけだが、一部分だけでも、やっていかねばいけないものである。</p> <p>堕胎罪は前時代の遺物である。撤廃すべきである。優生保護法には反対する。</p> <p>女の側だけの避妊には問題がある。二人で話し合って決めるべきである。</p>	<p>公衆浴場法の1部改正をすべき。</p> <p>以前国会に提出されたときに反対した。経済的理由を認めない、というのは現状に合わず、ヤミ中絶をよやすことになる。まず生活条件の改善が政治の役目。</p>	<p>女の性が商品化されるのは完全に禁止したい。その一方、女が自力で生活できる労働条件を整備することが重要。</p> <p>ない。むしろ刑法から堕胎罪に関する212条、214条を削除するよう要求していく。</p> <p>男性側の避妊の開発促進を要求していきたい。</p>
<p>自由選択にして不当な差別をうけないようにする方向。</p>	<p>国民的合意が必要である。</p>	<p>別姓を選べるようにしたいと考えている。</p>
<p>みんなで抗議していく必要がある。</p> <p>男女差別の本質を考える必要がある。公務員などでは、男女の一定比率を決めるべきである。</p>	<p>マス・メディア側の積極的姿勢が欠けていることが大きな問題。国民の側からの運動が必要。NHKの番組審議会などに婦人の委員をふやすことがだいじ。マス・メディアで働く女性をふやすことも大いにすすめるべき。</p> <p>労働条件の改善、どこででも働け、力を十分に発揮できるような職場にすることが大切。</p>	<p>政府がPRする。</p> <p>記事や番組に対する規制法案をつくることは言論・表現の自由弾圧につながる恐れがあるので、運動の形で規制したい。</p> <p>雇用平等法によりマスコミの中でも女性が差別なく働き続けられると思う。</p>

★熱弁観戦記★

依 萌子氏の立候補はこの時点では未発表だったが、注目の「日本女性党」と「新しい運動を求める人々の会」の代表も迎え、会場千駄ヶ谷区民会館会議室は「立席」も出るほどの満員。

政党代表は、予想どおり、自民党・新自由クラブが共に欠席。自民党は超多忙で来られないとのこと。安西愛子さんに聞いたら、今日の会など知らないとのこと、一体どこまで話が伝わっているのでしょうか。「新自由は、来場予定者の目程が合わなかったそう」と司会者から理由が述べられたあと、会場到着順に各代表者が回答を述べた。

必要があると考えております

まじめでりちぎ

公明党

トップバッターは公明党・鈴木勝氏。第一番に駆けつけた人らしい律義で素朴な印象。終始ハンカチで汗をふきふき、「素直な」発言。内容は「必要がある」「考える」の羅列が多い。ではその実現のためにどういう具体的な方策をもつか、かんじんの部分は残念ながら出なかった。

原則的にはもちろん男女共学を

淡々と語る

民主社会党

地味なスーツにメガネ、一見「女教師ふう」の新井田佳子氏の民社党が二番手。「ピンチヒッターで……」と弁解しながらクールに淡々と解

説。「原則的には共学に賛成だが、地域によっては別学でもよい」との回答が、あとの質疑応答で問題になったが、突っこまれると確信がなかった。「ピンチヒッター」で終始した感。

男女雇用平等法案を今国会に提出

抜群の具体性

日本社会党

三番手、社会党の田中寿美子氏は、さすが婦人問題研究家。答弁のすべてが具体的に自信に満ち、女の問題に真剣に取組んでいることを感じさせた。特に労基法三・四条の改正についての意見は抜群。また男女雇用平等法案を作成したのもこの党だけ。二の次、三の次にされがちな婦人問題を、党内で着実に立案化させたのは、田中氏はじめ、この党の婦人議員が良質で実力もあることを示すとみてよいだろう。時間外・深夜・危険有害物の就業制限緩和を安易にしてはならないということばも、長年婦人運動に取組んで来た人ならではの説得力を持ったものだった。

共産党が天下を取らねば……

原則論の

日本共産党

スカットとした背広、しゃれたネクタイ、七三に髪をなでつけ、手ぶり身ぶり熱をこめて語った共産党・榊利夫氏は、宮本・不破路線のマジメ派秀才タイプ。例によって例の共産党のPR。結

	公 明 党	民 社 党	日本女性党
6. 性について (イ) 売春につながるトルコ風呂の規制をどう考えているか。 (ロ) 優生保護法の改正を再上程するつもりはあるか。 (ハ) 避妊は女性側の負担になっているが、男性側の避妊の開発についてはどうか。	売防法の改正を考えている。野党共同提案による公衆浴場法の改正案をだしている。 ない。 パイプカット等原則的には賛成。	厳しく規制する。今国会に、公衆浴場法の一部改正を上程する。 ない。「母性基本法」制定に全力を尽くす。 男女区別することなく研究・開発すべき。	今の社会のしくみでは規制すればなくなるというものではないので女性をどんどん職場にだす方向でこの問題を考えたい。 全然ない。 避妊、出産に関してはすべて国が責任を持ってやるべきだと考える。男性の避妊も考えている。
7. 婚姻について (イ) 婚姻の際の別姓を認めることにについてどう思うか。	別姓をとれる方向が望ましい。	反対。男女不平等の助長にもなる。	認めるべき。
8. マス・メディアについて (イ) 世界行動計画で、マス・メディアを通じて男女の役割分業の固定化をなくしようとしているが、具体的にどうしたいか。 (ロ) マス・メディアで働く女性をふやすために、どのような具体的な方法があるか。	明快な決め手はさしあたりない。 雇用平等法の制定で確保される。	政府・自治体がマス・メディアを通して、役割分担の固定化をなくすアピールを行う必要がある。 女性問題をマス・メディアでとりあげる機会をふやす。	ゆくゆくは女性だけのマス・メディアを作りたい。

論としては、諸悪の根源は資本主義社会、学歴偏重社会にある。つまり共産党が天下をとらなければ女性のしあわせは訪れないという党方針が、終始胸を張って語られた。が、具体性がない。「女が内職をしなくてもいい社会を」ということがボロツと出て、質疑応答でだいぶつるしあげられたが、へ女の労働権 などという感覚が全くなく、しかもそれに全くお気づきでない」と会場の大部分の女たちが受取ってしまったのは、ちよつと酷すぎた感じがしなくてもなかった。

男女平等に反対

女性優位を戦う

日本女性党

真打ちの日本女性党は大遅刻で、榎美沙子御大は不出場。今日の代表、佐々木よう子氏は、そのへんの若いお嬢さんがボツと出て来た感じ、百戦錬磨の弁士が続いたあとだけに、気の毒だった。

「けしからん」ということばが何度も出た。

「けしからん」は、女の心情そのものかもしれないが、政治の場では「けしからん」のあとに続く政策が開きたい。具体性に欠けるのが残念。日本女性党らしい独創性はあまりなかったが、「男女差別撤廃」に各代表が「もちろん賛成」した中で、ただ一人、「反対。女性優位」をとるなえたところが出た。

女性差別はすべての差別の根源

新しい運動を求める人々の会

はでなピンクのスーツの吉武輝子氏が五番手で登場すると、会場に花が咲いたよう。熱弁また熱弁、進撃ラッパが鳴り響く。アジテーターだなア。スゴイ！ もし当選したら、処分覚悟

で、差別発言をとらえてすかさず「女性差別ダア」とどなる覚悟と聞いたけど、この人ならやるだろう。マスコミが彼女のあとを追ひ回し、言動が記事になるだろう。青島株を上回る吉武株となることは必至……。

抽象的、文学的な表現がボンボン出るのが気になるが、政治とはもっと具体的なものではないか。ただし政治に取組む姿勢はピンピン感じられた。

まだまだ「男からのお恵み」の平等

回答を聞き終わって

「男女平等ではない女性優位を」の日本女性党以外、各代表とも「男女平等を行政理念とする」と述べたが、その具体策となると、社会党が男女雇用平等法案を今国会に提出するという以外に「立法案を考えている」段階止まりであり、国内行動計画の実行案についても、社会党が企画推進本部のメンバーチェーンジをすべきだと提案した以外、何らの具体案も出なかった。

ある代表が、「党機関誌の婦人記者は男性記者と同一賃金です」と、あたりまえのことを胸を張って述べ、会場からの非難を浴びたように、男女同一賃金をはじめとする各種の婦人政策もまだ男性側からのお恵みの発想を脱していないことが、ことばのはしばしで伺われたのは残念だった。

今回の参院選には「女革命」を唱える日本女性党各姉のほか、女解放の運動家として、全国区に田中寿美子・吉武輝子、地方区(東京)に依萌子の各氏が立候補する。それぞれ所属グループが異なり、共同戦線が張れないのが残念だが、一人でも多くの有為な女性代表を送ることが、明日の社会を変える第一歩となるだろう。

(まとめ 藤原・山田)

あごらメイト

へあごら九州へ呼びかけ人



小島豊子さん

「朝日新聞でへあごら九州」が紹介されたらずいぶん電話がかかってきて。電話の向こうで赤ちゃんが泣いたりしてるんですね。あ、生活があるんだなあって思いました。」

その電話の向こう側の人々は、「あら、あなた未婚なんですか」と驚く人が多かったという。へあごらイコールへ主婦の組織」という固定観念があったのだから。

電話の向こうの泣き声を、「あ、生活があるんだなあ」と思ったというところが、いかにも豊子さんらしい花のようなお嬢さん。一番下の妹さんもう高校生で家庭に赤ん坊の泣き声はない。だが泣き声を「うるさい」と思う感覚はみじんもない。「あるがままのものを、あるがままに受けとめていきたい」という。

六百年も続いた博多の旧家の出らしい(?)折目正しさと、シンまで博多っ子らしいユーモアや俠気がある。へあごら九州へオープンの日、「あんまり人が少なくてさびしか」と心配するおあさんに、「熱意もない人を飾りに連れて行っても仕方がない。一人でも、二人でも、ほんとう

にやる気のある人だけやるの」と、キッパリ言明したという。

その若さと熱意は、福田光子さんというよき大先輩にも恵まれて、一人を二人に、二人を四人に、四人を八人に、ふくらませつつある。

「へあごら東京」とはちがうものになります。へあごら九州でなければ、というものを、みんなできつくりだしていきたいと思います。」

二十代前半。会社での仕事よりも高く評価されている。(S)



読む

中山千夏 編

男たちよ!

正直に言うと、まず目次を見てびっくり。性に関して解放されたいと思いつつ、まだまだ偏見がいつぱいで無知な私には「どうしよう」という戸惑いが先にたち、読み始めるのに時間がかかった。

目次は、月経から性欲、避妊、妊娠、出産、売春、強姦、女と女、男と女、等々、多岐にわたり、中山千夏と二、三人の女たちとの談話という形で各編がまとめられている。ほとんどが、「女の肉体およびそれにまつわる諸事」について語られており、「あとがき」で述べているように、「まず肉体を自分自身の手に取り戻す」という意気込みが全編にあふれている。

性に関して「解放されていない自分」という見方をすると「解放されなければならない」と思う。しかし今まで「無知な私」といういい方で「時が来ればわかり、今から知らなくとも」と消極的になっていた。

ここに大きな誤解のあることに私は最近気づいた。それは、性セックスであり、女性の性を全く見落していたのだ。女でありながら女の体について全く無知だったのだ。

この本では全て女の本音が語られている。タイトルは「男たちよ!」であるが、男たちによって作られた社会に住み、価値観すら男のものと同一化している女たちにも、是非読んでほしい本である。(話の特集刊九八〇円)(芳)

見た?

テレビ出演

余話

四月十一、十二の両日、NHKテレビの「奥さんご一緒に」に出演しました。婦人週間にちなむ「これからの婦人」というテーマで、何らかの仕事や社会活動をしている「主婦」六人とゲスト四人の話し合いです。「主婦」のメンバーは皆さん活発。番組終了の音楽が流れるのも何のその、話は更に熱をおびて、鏡の前で化粧を落していられる湯沢先生の所におしかけ熱弁、控室へ引揚げた私たちの所へ、今度は湯沢先生が「こ

この方が面白そうだ」とやって来られる、という調子です。

「サルトルや古典哲学を研究する人は日本に多数はいらない。それよりも……」という番組中の話に引き続き、ポランティアをやっている人や、ごみ問題にとりくんでいる人から、「こういう問題を学問的に追求している人も学部もない」と発言。大学は象牙の塔だ、ガリ勉した高校生などよりも問題意識をいっばいもった生活者を入学させたら学問が本当に生き生きする、大学が一般に門を開かないのは生活者であるオバチヤンがこわいからだろう。青年は大学へ入る前に労働すべきだ、技術習得のための専修学校もたくさん作れ……等々、話はつきません。「仕事が生きていって家庭をかえりみない男は結婚しなければよい」とは湯沢先生の弁。今まで「仕事が生きていいの女は……」という議論はよく聞かされたが、男はという発想を、男である湯沢先生から聞くのは初めてねえ、と一同感心しています。

出演者の一人で、はからずもあごら会員の前橋さんと渋谷駅前を歩いていたら、中年の女性に呼びとめられ、「今テレビに出てらしたでしょう。大変共鳴しましたよ」と告げられ大感激。メディアの威力に改めて驚くと共に、私たちの考えがこうして少しでも人々の中に広がっていくのを嬉しく思いました。

へあごら東海 浅野美和子

長かった保育園での生活に終止符を打って、わが家の長女はこの四月新一年生になった。入学式のその朝わずかながらの緊張と、いささかの照れを見せつつ、それでも嬉々とした表情で初登校の準備をしている長女を見て、職場を離れずに働き続けてきた私は、今までのことを振り返って、胸のあつくなる思いがしていた。

長女とともに校門をくぐると、はや校庭では、新入生の群れが、三々五々のさざめきの中で、飛んだりはねたり。

しばらくして、さざめきの中心が同伴の母親である

ことに、私は気がついた。一様に、髪をアップにし、

黒の絵羽織に、色無地の着物姿。申し合わせた様に統一されている。

ひやかし半分に新聞などが、そのケンを競う様を報道するのを見て同調したわけではないが、私はこれまでは傍観者として、多少のこっけいさを感じつつ、そんなものかと受け止めていたのだった。

今回は自分自身がその中にいる。保育園の卒園の時、洋服姿でいた私の友だちは、入学式には着物を作ったのよ、と話していたことを思い出した。その時はなに気なく聞いていたのだが、この集団を目の前にしてやれやれ、と納得したのである。壇上正式は体育館で行なわれた。壇上正

着物と君が代

杉浦雅恵

面に大きな日の丸の旗が飾られ、開会の辞を述べる校長先生は、うやうやしくその国旗に敬意を表したのだった。それが終わると「起立」ということになり、「君が代」斉唱だった。私は落ち着かない気持ちになり、そっぽを向いて、歌うことができなかった。皆歌っていた。

母親たちは今、なにを考えているのかと思いつつ、式が早く済めばよいと思っていた。式が終わってから「学校つて不思議だね。今さら君が代でもないのじゃあない？」と、私は問いかけたのに、反応はなかった。同じ保育園

卒園した子の父母で私以外の母親はみんな着物を着ていた。その人たちは卒園式には洋服だったのに。外見だけを見て、人を区別したり決めつけたりする気持はない。新入学児の母親として、子供の喜びを自分の喜びとして表現するのに、美しく着かざることが不当だというのではない。日頃家計簿とニラメッコして、パパのお小遣いなどもあまり予算からはみ出さないようにと監視している主婦が、晴れ着を新調するまたない機会であるかもしれない。でも、こんなことも耳にした。それは卒業する子を持つ母親たちのおしゃべりなのだが、卒業式と謝恩会

には、どうも皆さん別の着物でおいでになるようで。でも、二つもいっぺんに新調することはできないから、一方は借り着をするのだ、ということ。何だかヘンじやあない？ 私の洋服姿はともかく、洋服にだつて立派な盛装はあるだろうに、とも思った。「様に」というのが不思議だった。みんな、何かを見すごして、何かの中に、無神経にどっぴりとつかりすぎているような気がしてユウウツ。これから先ずうっと小学校、中学校、そして大学へと続く教育のなかで、しよつちゆうぶつかるであろう場面。キモノ、キミガヨ、キョウイクマ、か……。

長女は式が終わって帰宅の途中、

あごら全国大会

実行委員を募る！

今年の二月で「あごら」は創立五

伝える！

伝えたいこと
言いたいこと
ある？

1コマ
1000円
デース

「あごら」普及版として、従来のバカ通信に代わり「あごら」を発行以来、替り南無を寄せています。その却け「あごら」16号に掲載しましたが、毎月の「あごら」発行は、お初の手紙以上に、財政、労力の両面で、お初を圧迫しています。発行を公約した以上、少なくとも今年一冊は発行します。どのような方法で発行すべきか、あなだの「あごら」をぜひお知れください。（現下、下記のような見解が広がっています）。

- かり版のものを簡単なものでもいい。
- 16ページでなく、毎月8ページにしてもよい。
- 「あごら」を中止し、本誌を3回発行したほうがいい。
- 刊行として16ページ建てるべき。
- 人手が足りないなら手助けを、お金の足りないならカンパを呼びかけ、どうしてもこれ以上やれないというところまでやり抜くべき。

周年を迎えました。本誌「あごら」も山越え谷越えながら会員の熱い心に支えられ、五月下旬十六号を発行の予定です。

五周年を記念して、会員相互の交流・親睦と今後の「あごら」の発展のため、今秋、あごら全国大会を開催したいと思っております。

全国大会も、会員一人一人の力と熱意で創られるものです。大会を成

功させるため、多くの実行委員来られ、毎月二回程度実行委員会をひらき、企画・運営を討議する予定です。また、これぞというアイデアがありましたら、おチエだけでも拝借したい。電話参加・郵便参加も歓迎します。一人でも多くのやる気ある方と一緒に創りましょう。

（あごら全国大会準備委員会・「あごら東京」 山田朋子）

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
5月14日(土)	13:00~17:00	勇気をだして駆けこもう——オープンした駆け込み寺をめぐって 〈行動を起こす女たちの会〉 300円		婦選会館	03-370-0238
	14:00~	女と生涯教育 〈あごら九州〉		福田宅	092-751-5002
15日(日)	18:30~20:30	夫についてホンネを語る 〈あごら北海道〉		札幌クリスチャンセンター	
17日(火)	18:00~21:00	松田解子著「地底の人びと」について——青山禎子〈婦問懇・女性史分科会〉		文化服装学院出版局 3F 応接室	
	20:00~	私のはなし——今、悩んでいることを話そう 〈女裸衣〉		西荻ホビット村 3F	03-332-1187
18日(水)	18:00~21:00	結婚の意味を問う継続討論会 〈藤村哲〉		豊島振興会館小会議室	
18日(水)	18:30~	諸外国の女シリーズ・未定 〈行動を起こす女たちの会・国際分科会〉		ホーキ星	03-341-9364
	18:30~	アジアと女性解放 ②経済侵略と女性—北沢洋子 〈アジアの女たちの会〉		渋谷勤労福祉会館	03-508-7070
	20:15~	シネマ・メッセージ「モンターギュ村の核戦争」—サム・ラブ・ジョイの		西荻ホビット村 3F	
		闘い—市民原発反対斗争の記録 〈フリースクール〉 300円			
20日(金)	19:00~	おんなのからだのおしゃべり会 妊娠・出産編——子どもとのつきあい方		ホーキ星	
21日(土)	13:00~17:00	労働時間の短縮について 〈行動を起こす女たちの会・労働と主婦分科会合同例会〉		千駄ヶ谷区民会館	03-402-7854
	13:30~	吉武輝子氏をかこんで 〈行動を起こす女たちの会・国際分科会〉 問い		あごら読書室	03-354-9014
		合わせ先 ヤンソン由実子 ☎405-7057			
22日(日)	14:30~20:00	魔女コンサート'77 前売券1000円 当日券1200円		日比谷野外音楽堂	
22日(日)	13:00~17:00	婚姻制を考えるティーチン 〈「交流」編集会〉		中野文化センター和室	03-383-1631
23日(月)	19:00~	手話で話そうよ! 〈ホーキ星〉 第2・4月曜日		ホーキ星	
24日(火)	18:30~21:00	活元大会 〈からだのひろば実行委員会〉 300円		神宮前区民会館	
25日(水)	13:30~15:30	子どもといっしょにからだを動かそう! 〈あんふあんて〉		神宮前区民会館	
	18:00~	生きる上での仕事の意味 〈あごら東京〉		あごら読書室	
	19:00~	W・ライヒ読書会 〈ホーキ星〉 毎週水曜日		ホーキ星	
26日(木)	18:00~	田中寿美子さんに聞く 〈政治を変えたい女たちの会〉		ホーキ星	
27日(金)	13:30~	女と生涯教育 〈あごら東海〉		名古屋勤労婦人センター	
	13:30~	大河内一男著「賃金」についての読書会 〈婦問懇・社会保障分科会〉		柴山恵美子宅	0423-83-4174
28日(土)	19:00~	女のうた——青木とも子		ホーキ星	
29日(日)	13:00~	がんじがらめはイヤだ——刑法改悪 〈企業秘密漏示罪を許さない連絡会〉		全国婦人会館	
		160団体の参加			
30日(月)		月曜講座・万金を積んでも買えない魂子——山岸会の供給活動		西荻ホビット村 3F	
6日3日(金)		おんなのからだのおしゃべり会——婦人病について 〈ホーキ星〉		ホーキ星	
6日(月)	19:00~	月曜講座・身障者と共に生きる——あらくさの仲間 〈フリースクール〉		西荻ホビット村 3F	
7日(火)	18:30~21:00	からだのひろば第2期——ヨガと野口整体 指導=黒田章子 毎火曜日		千駄ヶ谷区民会館	

(この欄に掲載ご希望の方はハガキでお申し込み下さい。 掲載無料——〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 〈あごらミニ〉編集部)

各地の〈あごら〉例会案内

□あごら北海道

夫についてホンネを語る

・例会は毎月15日 参加費二百円
・5月15日(日) 午後6時30分~8時30分

・札幌クリスチャンセンター
▽問い合わせ ☎011-262-1141 山口里子

□あごら東京

生きる上での仕事の意味

・高橋悦子さんの「訴える」(ミニ創刊号掲載)の問題提起をどう受けとめるか、いっしょに考えましょう。

・5月25日(水) 午後6時~9時

・あごら読書室(地下鉄・新宿御苑前下車)

▽問い合わせ ☎03-3354-9014 あごら事務局

□あごら東海

女と生涯教育

・今月よりこのテーマで取り組みます。
・5月27日(金) 午後1時30分

・名古屋勤労婦人センター
▽問い合わせ ☎052-621-0839 高橋ますみ

□あごら九州

女と生涯教育

・5月14日(土) 午後2時
・福岡市中央区大濠2の1の1 パールシャト

ウ三〇一

▽問い合わせ ☎092-751-5962

(編集後記)

どこの政党とも特定の関係を持たない方針の「あごら」ですが、今後の参院選は私たちの前途を決める大問題だと思います。各政党の婦人政策を聞く会の取材記事の特集しました。へ政治を変えたい女たちの会が発足の動きもあります。選ばぬいた一票を投じましょう。●本誌発行の影響で、前月に引続き八ページ建てとします。本誌発行の月はミニを休刊してもいいのではないかと、毎号八ページで十分ではないか、いや減ページはけしからん等、賛否再論がふつとしました。ご意見を待っています。なお誌面の都合で、やさしい編集「は今月は休載、切抜きから」は、今後、本誌「あごら」に載せません。